

指導月	時数	頁	教材名	学習指導のねらい	学習活動	学習指導要領の内容	評価規準		
							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4月(2時間)	2	表紙裏①・1	知りたいな 世界の「書く」伝えたいな 日本の「書く」	○世界の文字文化や日本の文字文化を知り、興味・関心を高めている。	○教科書①・1ページの写真を見て、世界の「書く」ことの文化について話し合う。 ○教科書①・1ページの写真や、自分のこれまでの経験を踏まえ、日本の「書く」として文字文化について話し合う。 ○グループで発表する。	アウ	B : 世界の文字文化や日本の文字文化について話し合っている。 A : 世界の文字文化や日本の文字文化について進んで話し合っている。 支援 : これから社会科で学習する内容と関連づけて説明するようにする。話し合いの視点として、文字の歴史に関する事で知っていることがあるか、問いかけるようにする。	B : 世界の文字文化や日本の文字文化について考えている。 A : 世界の文字文化や日本の文字文化についてよく考えている。 支援 : 草書や行書などの書道作品や実際に書いている動画などを活用し、関心がもてるようにはたらきかける。	B : 世界や日本の文字文化、歴史について関心をもち、調べていこうという意識をもっている。 A : 世界や日本の文字文化、歴史について関心をもち、積極的に調べていこうという意識をもっている。 支援 : 教科書の図版について、見たことのあるものはあるか問いかける。他教科との関連を知らせることで、関心がもてるようにはたらきかける。
		2・3	目次 六年生で学習すること	○1年間の学習内容や学習の進め方について確認し、書写学習に対する意欲をもつことができる。	○1年間の学習内容を知り、見直しをもつ。	アウ	B : 1年間のめあてや学習内容について知っている。 A : 1年間のめあてや学習内容について理解している。 支援 : 前学年で学習した内容をふまえながら説明する。		B : 1年間の学習内容を知り、書写学習に対する意欲をもっている。 A : 1年間の学習内容を知り、積極的に書写学習に取り組む意欲をもっている。 支援 : 教科書紙面を参照しながら、1年間の学習内容と、学習したことを書写以外の学習にも生かしていくことについて説明する。
		4～8	1 はじめの学習 ■学習の進め方 ■点画の種類 ■姿勢と持ち方、用具のあつかい方	○学習の進め方について確認する。 ○用具の並べ方や扱い方について確かめることができる。 ○よい姿勢や筆の持ち方について確かめることができる。 ○常により姿勢やよい持ち方を意識して書くことができる。 ○練習用紙の作り方を確かめることができる。	○1年間の学習の進め方を確かめる。 ○姿勢図を見て、用具の置き方、正しい姿勢、用具の持ち方を確かめる。 ○教科書5ページを参照しながら、「点画の種類」と筆圧のかけ方について確かめる。 ○ワークシートを活用して、「点画の種類」を毛筆で書く。 ○練習用紙の作り方を確かめる。 ○自分のめあてを設定して練習する。 ○自分のめあてに沿って「点画の種類」をまとめ書きする。 ○後片づけの仕方を確かめる。	アイウ	B : 用具の扱い方やよい姿勢、筆の持ち方、筆の扱い方を理解している。用具の扱い方やよい姿勢、筆の持ち方が身につけている。 これまでに学習した「筆圧」や「点画の種類」について理解している。 A : 用具の扱い方や、よい姿勢、筆の持ち方で書くことを、よく理解している。用具の扱い方や、よい姿勢、筆の持ち方が、よく身につけている。 これまでに学習した「筆圧」や「点画の種類」について、よく理解している。 支援 : よい姿勢、筆の持ち方で書くことの大切さについて理解を促す。用具の扱い方やよい姿勢、筆の持ち方のポイントを具体的に説明する。教科書紙面を参照しながら、「点画の種類」と筆圧のかけ方について理解を促す。	B : 用具の扱い方や姿勢、筆の持ち方、筆の扱い方の良しあしを考えている。 筆の穂の柔らかさや筆圧について考えている。 A : 用具の扱い方やよい姿勢、筆の持ち方、筆の扱い方の良しあしを判断している。 筆の穂の柔らかさや筆圧について、よく考えている。 支援 : どこを正すと姿勢、筆の持ち方がよくなるかを、基準に照らして説明する。筆の状態を確認し、運筆がしやすい状態に整えるようにする。教科書紙面を参照しながら、筆圧を三段階でとらえて、力の入れ方と太さを確かめられるようにする。	B : 用具の扱い方やよい姿勢、筆の持ち方、筆の扱い方を確かめようとしている。 他の書写場面でも、よい姿勢、筆の持ち方で、筆の穂の柔らかさや筆圧、「点画の種類」を意識して書こうとする意識をもっている。 A : 用具の扱い方やよい姿勢、筆の持ち方、筆の扱い方を積極的に確かめようとしている。 常により姿勢、筆の持ち方で、筆の穂の柔らかさや筆圧、「点画の種類」を意識して書こうとする意識をもっている。 支援 : 用具の配置図や姿勢図、持ち方の写真と比べて、自分でチェックできるようにする。書写の授業以外でも気をつけるように呼びかける。
5・6月(3～4時間)	3～4	9・10	2 文字の大きさと配列 『歩む』	○文字の大きさと配列を理解することができる。 ○文字の大きさと配列に気をつけて、字形を整えて書くことができる。 ○文字の大きさと配列を確かめて、硬筆で字形を整えて書くことができる。	○『歩む』を硬筆や毛筆で試書する。 ○試書と教材文字を比べて話し合う。 ○漢字と平仮名の形や大きさの違いと配列の整え方を理解する。 ○文字の大きさと配列に気をつけて練習する。 ○『歩む』を硬筆や毛筆でまとめ書きする。 ○試書とまとめ書きを比べる。 ○めあてに沿って、自己評価をしてから相互評価をする。 ○巻末漢字表などから、漢字と平仮名を組み合わせた言葉を作って硬筆で書く。	アイウ	B : 用紙に対する文字の大きさと配列について理解している。 用紙に対する文字の大きさと配列に気をつけて書いている。 A : 用紙に対する文字の大きさと配列について、よく理解している。 用紙に対する適切な文字の大きさで、文字の中心を行の中心に揃えて書いている。 支援 : 練習用紙には、鉛筆で薄く中心線を入れたり、文字の大きさの目安となる印をつけたりしてもよいことを助言する。	B : 用紙に対する文字の適切な大きさと配列について考えている。 A : 用紙に対する適切な文字の大きさと配列について、よく考えている。 支援 : 教科書の文字例から、つり合いがとれていない文字の理由について問いかける。	B : 他の文字や硬筆でも、用紙全体に対する文字の大きさや配列に気をつけて書こうとする意識をもっている。 A : 常に用紙全体に対する文字の大きさや配列に気をつけて書こうとする意識をもっている。 支援 : 漢字と平仮名を組み合わせた文章の例を提示することで、文字の大きさや配列に気をつけて書くことへの意欲を高められるようにする。
		11	【レッツ・トライ】 メモー話し合いメモ (書く速さを意識して)	○目的にふさわしい書く速さについて理解することができる。 ○許容される書き方について知り、関心をもちることができる。	○書く場面について具体例をあげて、目的に応じてどのような速さで書けばよいか話し合う。 ○限られた時間のなかでメモを取るとき工夫を話し合う。 ○許容される書き方について知る。 ○許容される書き方で、実際に書いてみる。	アウ	B : 目的に応じた書き方について理解している。 許容される書き方について知っている。 A : 目的に応じた書き方について、よく理解している。 許容される書き方について理解している。 支援 : 許容される書き方について、使用すると便利な場面や、使用を抑えた方がよい場面について、確かめられるようにする。	B : さまざまな場面に適した書き方について、話し合っている。 A : さまざまな場面に適した書き方について、積極的に話し合っている。 支援 : 具体的な場面を例にあげて、目的に応じた書き方について投げかけるようにする。	B : メモの取り方を知り、他教科での学習活動や日常生活に生かしていこうとする意欲をもっている。 許容される書き方を知り、関心をもち、積極的に調べている。 A : メモの取り方を知り、他教科での学習活動や日常生活に積極的に生かしていこうとする意欲をもっている。 許容される書き方について関心をもち、積極的に調べている。 支援 : 書写で学習した内容を、他教科で生かしていく学習であることを伝える。許容される書き方について、教科書を参照しながら点画の変化した形を確かめられるようにする。
6・7月(5時間)	3	12・13	3 文字の組み立て方 (三つの部分) 『湖』	○三つの部分の組み立て方を理解することができる。 ○三つの部分の組み立て方に気をつけて、字形を整えて書くことができる。 ○三つの部分の組み立て方を確かめて、硬筆で字形を整えて書くことができる。	○『湖』を硬筆や毛筆で試書する。 ○試書と教材文字を比べて話し合う。 ○三つの部分の組み立て方について理解する。 ○三つの部分の組み立て方に気をつけて練習する。 ○『湖』を硬筆や毛筆でまとめ書きする。 ○試書とまとめ書きを比べる。 ○めあてに沿って、自己評価をしてから相互評価をする。 ○巻末漢字表などから三つの部分の組み立て方に気をつける漢字を探して硬筆で書く。	アイウ	B : 三つの部分の幅の違いと点画の形の変化について理解している。 三つの部分の組み立て方に気をつけて書いている。 A : 三つの部分の幅の違いと点画の形の変化についてよく理解し、字形を把握している。 三つの部分の組み立て方に気をつけて、字形を整えて書いている。 支援 : 他の文字の例を見ることによって、点画のゆずり合いを比べてみるようにする。 点画のゆずり合いが確認できるようにする。	B : 三つの部分の組み立て方について考えている。 A : 三つの部分の組み立て方の良しあしを考えている。 支援 : 拡大文字などを使って、文字の組み立て方が確かめられるようにする。	B : 三つの部分の組み立て方に気をつけて書こうとしている。 他の文字や硬筆でも、文字の組み立て方に気をつけて書こうとする意識をもっている。 A : 三つの部分の組み立て方に気をつけて、字形を整えて書こうとしている。 常に文字の組み立て方に気をつけて書こうとする意識をもっている。 支援 : 三つの部分の組み立て方に気をつけるよう呼びかける。 学習した以外の文字でも、文字の組み立て方に気をつけて書くよう呼びかける。

指導月	時数	頁	教材名	学習指導のねらい	学習活動	学習指導要領の内容	評価規準		
							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
		14	＜硬筆の学習＞ 文字の組み立て方（左右、上下、中と外）	○左右、上下、中と外の組み立て方について理解することができる。 ○左右、上下、中と外の組み立て方に気をつけて、硬筆で字形を整えて書くことができる。	○『衛』『測』『述』『葉』『案』『属』『閑』『医』『団』を硬筆で試書する。 ○組み立て方の図を見ながら基準を理解する。 ○筆順と字形の関わりについて確かめる。 ○左右、上下、中と外の組み立て方に気をつけて練習する。 ○硬筆でまとめ書きをする。 ○試書とまとめ書きを比べる。 ○めあてに沿って、自己評価をしてから相互評価をする。 ○巻末漢字表から三つの部分の組み立て方の漢字を探して硬筆で書く。	アウ	B ：左右、上下、中と外の組み立て方について理解している。 左右、上下、中と外の組み立て方に気をつけて書いている。 A ：左右、上下、中と外の組み立て方についてよく理解し、字形を把握している。 左右、上下、中と外の組み立て方に気をつけて、字形を整えて書いている。 支援 ：拡大文字や分解文字などを使って、組み立て方が視覚的に理解できるようにする。	B ：左右、上下、中と外の部分の組み立て方について考えている。 A ：左右、上下、中と外の組み立て方の良しあしを考えている。 支援 ：教科書の図版を参照し、組み立て方について確かめられるようにする。	B ：左右、上下、中と外の組み立て方に気をつけて、硬筆で書こうとしている。 A ：左右、上下、中と外の組み立て方に気をつけて、字形を整えて硬筆で書こうとしている。 支援 ：左右、上下、中と外から構成されるさまざまな文字について調べること、関心を高めるようにする。
	1	15	【レッツ・トライ】 ノート—国語のノート	○学習内容が理解しやすいノートのまとめ方を理解することができる。 ○書写で学習した内容を、他教科での学習に生かしていく意欲をもち、工夫して書くことができる。	○学級内でまとめ方がわかりやすいノートの例を数点用意して、工夫されている点を話し合う。 ○話し合った内容を発表し、学級で共有する。 ○学習したことを生かして、次時のノートをとる。	アウ	B ：学習内容が理解しやすいノートのまとめ方についてわかっている。 学習内容が理解しやすいように工夫してノートをまとめている。 A ：学習内容が理解しやすいノートのまとめ方について、よく理解している。 学習内容が理解しやすいように、よく工夫してノートをまとめている。 支援 ：箇条書きで書く際の行頭のあげ方や余白のとり方など、具体的な視点をあげて呼びかける。 自分の普段のノートを見直してみ、わかりにくい点はないか確かめるようにする。	B ：学習内容が理解しやすいノートのまとめ方について考えている。 A ：学習内容が理解しやすいノートのまとめ方について、よく考えている。 支援 ：どのように書いたら内容が理解しやすいか、具体的な書き方について例示するようにする。	B ：書写以外の学習場面でも、わかりやすい書き表し方を工夫して書こうとしている。 A ：書写で学習した内容を、他教科での学習に生かし、積極的に書こうとする意欲をもっている。 支援 ：書写で学習した内容を、他教科で生かしていく学習であることを伝える。
	1	16・17	【レッツ・トライ】 リーフレット—校外学習のリーフレット	○用紙全体に対する文字の大きさや余白のとり方に気をつけて、配列を整えて書くことができる。 ○読み手にわかりやすく効果的に伝えるための、筆記具の工夫について理解することができる。 ○書写で学習した内容を、学校生活に生かしていく意欲をもち、丁寧に書くことができる。	○必要事項を入れて、リーフレットの下書きを書いてみる。 ○教材例を見ながら基準を理解する。 ○折り方とレイアウトを考える。 ○書く目的に応じた筆記具を選択する。 ○相手に内容が伝わりやすい表し方を考えて練習する。 ○配置の補助線を引くなど工夫して、実際のリーフレットをまとめ書きする。 ○リーフレットを見せ合い、考えを深める。	アウ	B ：読みやすく書くための基準について理解している。 文字の大きさ、行の中心、余白、行頭の位置に気をつけて書いている。 A ：読みやすく書くための基準について、よく理解している。 文字の大きさ、行の中心、余白、行頭の位置に気をつけて、配列よく書いている。 支援 ：配列は整っているか、筆記具は効果的に使われているかなど、具体的な投げかけをする。 鉛筆で下書きをすることで、文字の大きさや配列のめやすになるようにする。	B ：読みやすく書くための基準を確認し、自分のめあてを設定している。 A ：読みやすく書くための基準を確認し、自分のめあてを設定し、解決方法を選択している。 支援 ：読みやすく書くための基準について確かめられるようにする。	B ：書写で学習した内容を、他教科での学習や日常生活にも生かしていく意欲をもっている。 A ：書写で学習した内容を、他教科での学習や日常生活にも積極的に生かしていく意識をもっている。 支援 ：読みやすい掲示物の例などを具体的に例示する。 書写の授業以外でも、相手の読みやすさや効果を考えて書くよう呼びかける。
	適時	18・19	【知りたい 文字の世界】 文字の旅	○身のまわりで見られる文字の成り立ちについて知り、興味・関心を高めることができる。 ○平仮名のもとになる漢字を知り、文字に対する興味・関心を高めることができる。	○現代でも見られる昔に作られた文字や、文字は何のためにあるかについて考え、話し合う。 ○文字の成り立ちについて知る。 ○平仮名や片仮名のもとになった漢字、昔に作られた文字についてなどをグループで調べる。 ○調べたり話し合ったりした結果を発表する。	アウ			B ：文字の成り立ちについて関心をもち調べている。 A ：文字の成り立ちについて関心をもち、積極的に調べている。 支援 ：他の平仮名の字源や片仮名の字源を紹介することで、関心を高めるようにする。
9月（3時間）		3	4 文字の大きさと配列、点画のつながり『思いやり』	○文字の大きさと配列、点画のつながりについて理解することができる。 ○文字の大きさと配列、点画のつながりに気をつけて書くことができる。 ○文字の大きさと配列、点画のつながりを確かめて、硬筆で字形を整えて書くことができる。	○『思いやり』を硬筆や毛筆で試書する。 ○試書と教材文字を比べて話し合う。 ○教科書を参考にしながら、文字の大きさと配列、点画のつながりについて理解する。 ○文字の大きさと配列、点画のつながりに気をつけて練習する。 ○『思いやり』を硬筆や毛筆でまとめ書きする。 ○試書とまとめ書きを比べる。 ○めあてに沿って、自己評価をしてから相互評価をする。 ○学習の成果を生かして、硬筆で『思いやり』『はずむ心』を書く。	アイウ	B ：点画のつながりについて理解している。 配列のポイントについて理解している。 点画のつながりに気をつけて書いている。 用紙に対する文字の大きさに気をつけて、文字の中心を行の中心に揃えて書いている。 A ：点画のつながりについて、よく理解している。 配列のポイントについて、よく理解している。 点画のつながりに、よく気をつけて書いている。 用紙全体に対する文字の大きさに気をつけて、文字の中心を行の中心を揃えて配列よく書いている。 支援 ：書いている様子を友だちと見合いながら、次につながる穂先の動きについて確かめられるようにする。 中心線が書いてある練習用紙を使うことで、配列が確かめられるようにする。	B ：点画のつながりについて考えている。 用紙に対する文字の大きさと配列について考えている。 A ：点画のつながりについて、よく考えている。 用紙全体に対する文字の大きさと配列について、よく考えている。 支援 ：朱墨や薄墨を使って、穂先の向きや通り道が確かめられるようにする。	B ：点画のつながりについて関心をもちている。 用紙に対する文字の大きさと配列に気をつけて書こうとしている。 A ：点画のつながりや用紙に対する文字の大きさと配列に気をつけて、積極的に書こうとしている。 常に点画のつながりや用紙に対する文字の大きさ、配列に気をつけて書こうとする意識をもっている。 支援 ：次の線へつながる穂先の動きについて、教科書の図版を使いながら説明する。 学習した以外の文字でも、点画のつながりや配列に気をつけて書くよう呼びかける。
	適時	23	【知りたい 文字の世界】 私たちと文字	○日常生活のなかで見られるさまざまな文字を探し、文字に対する関心を高めることができる。 ○日常生活のなかで見られるさまざまな文字の印象について、話し合うことができる。	○事前に用意しておいた文字資料を提示する。 ○教室内の「文字」を探す。 ○集めた文字資料の中から、任意の数をグループごとに選択して話し合う。 ○「手書き文字」「活字」それぞれの特徴や効果についてまとめる。	アウ	B ：日常生活のなかで見られるさまざまな文字について知っている。 A ：日常生活のなかで見られるさまざまな文字について理解している。 支援 ：教科書紙面を使いながら説明をすることで理解を促す。	B ：日常生活のなかで見られるさまざまな文字について話し合い、考えている。 A ：日常生活のなかで見られるさまざまな文字について積極的に話し合い、よく考えている。 支援 ：文字に関する発問を用意しておくなど、話し合いの観点を示すようにする。	B ：日常生活のなかで見られるさまざまな文字について、調べようとする意識をもっている。 A ：日常生活のなかで見られるさまざまな文字について、積極的に調べようとする意識をもっている。 支援 ：教科書の例、または用意しておいた文字資料を提示し、興味・関心を高めるようにする。

指導月	時数	頁	教材名	学習指導のねらい	学習活動	学習指導要領の内容	評価規準		
							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
10・11月 (6～7時間)	1	24・25	【レッツ・トライ】 文化一『枕草子』を書く	○文字の大きさと配列に気をつけて書くことができる。	○縦罫線の用紙に「春はあけぼの」を硬筆で試書する。 ○縦書きで配列を整えて書くための基準を理解する。 ○中心線が入ったものや、行頭に破線が入った練習用紙などを選択して練習する。 ○硬筆でまとめ書きする。 ○試書とまとめ書きを比べる。 ○めあてに沿って、自己評価をしてから相互評価をする。 ○いろいろな筆記具で、『枕草子』の好きな部分を選んで書く。	アウ	B ：文字の大きさと配列について理解している。 文字の大きさと配列に気をつけて書いている。 A ：文字の大きさと配列についてよく理解し、字形を把握している。 行の中心と余白のとり方に気をつけて、配列を整えて書いている。 支援 ：文字の外形を囲むことで、文字の大きさを視覚的に確かめられるようにする。 中心線などの補助線を引いて、配列を確かめられるようにする。	B ：文字の大きさと配列について考えている。 A ：文字の大きさと配列について、よく考えている。 支援 ：試書と教材文字とを比較して、自分の課題がわかるようにする。	B ：伝統的言語文化の教材を書く意欲をもっている。 文字の大きさと配列に気をつけて書こうとしている。 書写以外の学習場面でも、文字の大きさや配列に気をつけて書こうとする意識をもっている。 A ：伝統的言語文化の教材を積極的に書こうとしている。 文字の大きさと配列に気をつけて、積極的に書こうとしている。 常に文字の大きさや配列に気をつけて書こうとする意識をもっている。 支援 ：まだ学習していない漢字については、筆順と字形を確認するよう呼びかける。 教科書の教材は、配列の整え方がどのようになっているか、確かめられるようにする。
	3～4	26・27	5 文字の大きさと配列、点画のつながり(小筆) 『名月や池をめぐりて夜もすがら』	○文字の大きさと配列、点画のつながりについて理解することができる。 ○文字の大きさと配列、点画のつながりに気をつけて書くことができる。	○教科書7ページを参照して、小筆の持ち方を確かめる。 ○『名月や池をめぐりて夜もすがら』を小筆で試書する。 ○試書と教材文字を比べて話し合う。 ○文字の大きさと配列、点画のつながりについて理解する。 ○文字の大きさと配列、点画のつながりに気をつけて練習する。 ○『名月や池をめぐりて夜もすがら』を小筆でまとめ書きする。 ○試書とまとめ書きを比べる。 ○めあてに沿って、自己評価をしてから相互評価をする。 ○いろいろな用紙に、好きな俳句を小筆で書く。	アイウ	B ：文字の大きさと配列について理解している。 点画のつながりについて理解している。 用紙全体に対する文字の大きさに気をつけて、行の中心をそろえて書いている。 点画のつながりに気をつけて書いている。 A ：配列のポイントについて、よく理解している。 点画のつながりについて、よく理解している。 用紙全体に対する文字の大きさに気をつけて、行の中心をそろえて配列よく書いている。 点画のつながりに、よく気をつけて書いている。 支援 ：外形が書いてある練習用紙を使うことで、配列が確かめられるようにする。書いている様子を友だちと見せ合いながら、次につながる穂先の動きについて確かめられるようにする。	B ：用紙全体に対する文字の大きさについて考えている。 点画のつながりについて考えている。 A ：用紙全体に対する文字の大きさについて、よく考えている。 点画のつながりについて、よく考えている。 支援 ：余白に偏りがある例を見ることで、用紙に対する文字の大きさと配列について確かめられるようにする。筆使いに着目するよう促し、穂先の動きが確かめられるようにする。	B ：他の文字や硬筆でも、用紙全体に対する文字の大きさや点画のつながりに気をつけて書こうとする意識をもっている。配列や点画のつながりについて関心をもっている。 A ：常に用紙全体に対する文字の大きさに点画のつながりに気をつけて書こうとする意識をもっている。配列や点画のつながりについて関心もち、積極的に書こうとしている。 支援 ：学習した以外の文字でも、点画のつながりや配列に気をつけて書くよう呼びかける。次の線へつながる穂先の動きについて、教科書の図版を使いながら説明する。
	2	28・29	【レッツ・トライ】 小筆一小筆を生かして書く	○小筆を学習や生活のなかで生かす活動に、意欲的に取り組むことができる。 ○筆使いに気をつけて、小筆で書くことができる。 ○行の中心や余白のとり方に気をつけて書くことができる。	○教科書7ページを参照して、小筆の持ち方を確かめる。 ○三種類の大きさの半紙から一つ選び、それぞれ考えた行数で『名月や池をめぐりて夜もすがら』を小筆で試書する。 ○試書と教材文字を比べて話し合う。 ○自分のめあてを設定して、練習用紙を選び、練習する。 ○『名月や池をめぐりて夜もすがら』を小筆でまとめ書きする。 ○試書とまとめ書きを比べる。 ○めあてに沿って、自己評価をしてから相互評価をする。 ○いろいろな用紙に好きな俳句や言葉の小筆で書く。	アイウ	B ：小筆の持ち方や筆使い、配列について理解している。 筆使いに気をつけて、小筆で書いている。 配列や余白のとり方に気をつけて書いている。 A ：小筆の持ち方や筆使い、配列についてよく理解し、字形を把握している。 筆使いに気をつけて、字形を整えて小筆で書いている。 余白のとり方に気をつけて、配列よく書いている。 支援 ：教科書の教材文字を参照し、小筆の筆使いが確かめられるようにする。 小筆の持ち方や筆使い、配列の要点が視覚的に理解できるようにする。	B ：小筆の持ち方や筆使い、配列について考えている。 A ：小筆の持ち方や筆使い、配列の良さしを考えている。 支援 ：小筆の持ち方の図を使って、持ち方を確かめられるようにする。	B ：小筆を学習や生活のなかで生かす活動に、意欲的に取り組もうとしている。 日常生活においても、小筆の持ち方や筆使い、配列に気をつけて書こうとする意識をもっている。 A ：小筆を学習や生活のなかで生かす活動に、積極的に取り組もうとしている。 常に小筆で字配りよく書こうとする意識をもっている。 支援 ：小筆の持ち方や筆使い、配列に気をつけるよう呼びかける。 日常生活におけるいろいろな機会でも、小筆を活用して、配列よく書くよう呼びかける。
11・12月 (4～5時間)	4～5	30～33	■好きな言葉を書く (『希望』『伝統』『平等』『豊かな海』)	○好きな言葉を選び、自分のめあてを設定し、めあてに気をつけて書くことができる。 ○6年間で学習したことを生かして、意欲的に取り組むことができる。 ○毛筆で選んで書いた言葉を、硬筆で書いて確かめることができる。	○『希望』『伝統』『平等』『豊かな海』の中から自分の好きな言葉の一つを選び、ワークシートに理由などを書く。 ○選んだ教材文字を硬筆や毛筆で試書する。 ○試書と教材文字を比べて話し合い、自分のめあてを設定する。 ○これまでの学習を振り返りながら、練習する。 ○選んだ教材文字を硬筆や毛筆でまとめ書きする。 ○試書とまとめ書きを比べる。 ○めあてに沿って、自己評価をしてから相互評価をする。 ○選んだ文字以外の教材文字を硬筆で書く。	アイウ	B ：これまで学習した配列や字形の整え方について理解している。 自分で選んだめあてに沿ったポイントに気をつけて書いている。 A ：これまで学習した配列や字形の整え方について、よく理解している。 自分で選んだめあてに沿ったポイントに気をつけて、配列よく書いている。 支援 ：6年間の学習内容や成果が確かめられるようにする。 それぞれの教材における要点について、個別に支援するようにする。	B ：6年間で学習したことを生かして、自分のめあてを選んでいる。 A ：6年間で学習したことを生かして、自分のめあてを適切に選んでいる。 支援 ：選んだ教材を試書することで、自分のめあてが見つけられるように支援する。	B ：6年間で学習したことを生かして、自分のめあてを設定し、書こうとしている。 他の学習場面においても、字形の整え方や文字の大きさに気をつけて、配列よく書こうとする意識をもっている。 A ：6年間で学習したことを生かして、自分のめあてを設定し、積極的に書こうとしている。 常に字形や文字の大きさに気をつけて、配列よく書こうとする意識をもっている。 支援 ：自分が書いてみたい言葉を選び、その教材におけるポイントを確かめられるようにする。 書写の授業以外でも、字形や文字の大きさ、配列に気をつけて書くよう呼びかける。

指導月	時数	頁	教材名	学習指導のねらい	学習活動	学習指導要領の内容	評価規準			
							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
12・1月 (4～5時間)	4～5	43、45～48	書きぞめ 『理想』 『夢の実現』	○床の上や立って書くときの姿勢、筆の持ち方に気をつけて、これまでの学習を生かして書くことを理解することができる。 ○文字の大きさや組み立て方に気をつけて、字形を整えて書くことができる。 ○文字の中心に気をつけて書くことができる。	○書きぞめの由来を確かめる。 ○書きぞめの姿勢や小筆の持ち方を確かめる。 ○『理想』(または『夢の実現』)を試書する。 ○試書と教材文字を比べて、自分のめあてを設定する。 ○教科書5ページを参照しながら、基本点画の筆使いを確かめる。 ○文字の大きさや組み立て方に気をつけて練習する。 ○試書とまとめ書きを比べて、自己評価する。	アイウ	B :書きぞめの姿勢や筆の持ち方、文字の大きさや組み立て方、文字の中心について理解している。 これまで学習した文字の大きさや組み立て方、文字の中心に気をつけて書いている。 A :書きぞめの姿勢や筆の持ち方、文字の大きさや組み立て方、文字の中心について、よく理解している。 これまで学習した文字の大きさや組み立て方、文字の中心に気をつけて、配列よく書いている。 支援 :教科書で学習した文字の組み立て方のポイントについて振り返ること、確かめられるようにする。 書きぞめ用紙を縦半分折り、中心を意識できるようにする。 外形を考えることで、文字の大きさについて確かめられるようにする。	B :書きぞめの姿勢や筆の持ち方について考えている。 A :書きぞめの姿勢や筆の持ち方の良さあしを考えている。 支援 :姿勢図や筆の持ち方の図版などを使って、確かめられるようにする。	B :書きぞめに関心を持ち、書こうとしている。 他の学習の書写場面でも、よい姿勢や筆の持ち方、文字の大きさや組み立て方、文字の中心に気をつけて書こうとする意識をもっている。 A :書きぞめに関心を持ち、積極的に書こうとしている。 常に姿勢や筆の持ち方、文字の大きさや組み立て方、文字の中心に気をつけて書こうとする意識をもっている。 支援 :書きぞめの由来を説明し、書きぞめについて関心が高まるようにする。 書写の授業以外でも、姿勢や筆の持ち方、文字の大きさや組み立て方、文字の中心に気をつけて書くよう呼びかける。	
2・3月 (3～4時間)	3～4	34・35	6 学習のまとめ 『旅立ちの時』	○これまで学習したことを生かして、自分のめあてを選んで、めあてに気をつけて書くことができる。 ○文字の大きさに気をつけて書くことができる。 ○学習したことを生かして、硬筆で書いて確かめることができる。	○『旅立ちの時』を硬筆や毛筆で試書する。 ○試書と教材文字を比べて、これまで学習したことの中から自分のめあてを選ぶ。 ○漢字と平仮名の大きさや配列について理解する。 ○自分のめあてに向かって練習する。 ○『旅立ちの朝』を硬筆や毛筆でまとめ書きし、試書と比べて達成度を話し合う。 ○自分のめあてが達成できなかった場合は、既習事項を振り返る。	アイウ	B :これまで学習した内容について理解している。 これまで学習したことを生かして、自分の課題に気をつけて書いている。 文字の大きさや配列に気をつけて書いている。 A :これまで学習した内容について、よく理解している。 これまで学習したことを生かして、自分の課題に気をつけて、字形を整えて書いている。 文字の大きさや配列に気をつけて、丁寧に書いている。 支援 :学級全体で意見を出し合い、1年間の学習内容や成果が確かめられるようにする。 中心線を引いたり、文字の外形を囲んだりして、具体的に示すようにする。	B :1年間の学習を振り返り、自分の課題について考えている。 文字の大きさや配列に気をつけて書こうとしている。 A :1年間の学習を振り返り、自分の課題についてよく考えている。 文字の大きさや配列に気をつけて、字形を整えて書こうとしている。 支援 :これまで学習したまとめ書きを見直すようにする。 文字の大きさや配列を整えるための留意事項について確かめられるようにする。	B :1年間の学習を振り返り、自分の学習の成果を確かめようとしている。 他の学習場面でも、文字の大きさや配列など、これまで学習したことに気をつけて書こうとする意識をもっている。 A :1年間の学習を振り返り、自分の学習の成果を積極的に確かめようとしている。 常に文字の大きさや配列など、これまで学習したことに気をつけて、丁寧に書こうとする意識をもっている。 支援 :これまで学習した教科書紙面を参照し、学習内容を確かめられるようにする。 書写の授業以外でも、文字の大きさや、配列、字形などに気をつけて書くよう呼びかける。	
		36・37	六年間で学習したこと	○文字の形や大きさ、組み立て方などに気をつけて、字形を整えて書くことができる。 ○学習したことを生かして、硬筆で書いて確かめることができる。 ○6年間の学習を振り返り、自分の学習の成果を確かめることができる。	○教材文字を見ながら1年間で学習したことを振り返る。 ○縦罫線の用紙に教科書の教材文を試書する。 ○中心に線を引いて自己修正する。 ○文字の大きさや配列に気をつけて、まとめ書きをする。	アイウ	B :これまで学習した内容について理解している。 文字の大きさや配列について理解している。 A :これまで学習した内容について、よく理解している。 文字の大きさや配列について、よく理解している。 支援 :学級全体で意見を出し合い、6年間の学習内容や成果が確かめられるようにする。	B :6年間の学習を振り返り、自分の課題について考えている。 文字の大きさや配列に気をつけて書こうとしている。 A :6年間の学習を振り返り、自分の課題についてよく考えている。 文字の大きさや配列に気をつけて、字形を整えて書こうとしている。 支援 :これまで学習したまとめ書きを見直すようにする。 文字の大きさや配列を整えるための留意事項について確かめられるようにする。	B :6年間の学習を振り返り、自分の学習の成果を確かめようとしている。 A :6年間の学習を振り返り、自分の学習の成果を進んで確かめようとしている。 支援 :これまで学習した教科書紙面を参照し、学習内容を確かめられるようにする。	
		38・39	【知っておこう】 手紙—お願いの手紙	○書写で学習した内容を、他教科での学習や日常生活にも生かしていく意欲をもつことができる。	○教科書を見て、手紙の書き方と封筒の書き方について確かめる。	アウ	B :手紙の書き方について理解している。 A :手紙の書き方について、よく理解している。 支援 :教科書の紙面を参照しながら、手紙の書式について確かめられるようにする。 封筒に対して文字が大きすぎたり小さすぎたりするように、教科書を見ながら確かめられるようにする。			
		40～42	【書いて 伝え合おう】 卒業制作—思い出に残る言葉を書こう	○書写で学習した内容を、他教科での学習や日常生活にも生かしていく意欲をもつことができる。	○相手意識をもって、言葉や用紙を考える。 ○自分の考えた言葉を試書する。 ○これまで学習した、用紙に対する文字の配置について確かめてから、レイアウトを考える。 ○自分のめあてに向かって練習する。 ○自分の表現効果にふさわしい筆記具を選ぶ。 ○自分の考えた言葉をまとめ書きする。 ○友達と交換し、成果を認め合う。	アイウ	B :効果的に書くための基準について理解している。 文字の大きさ、行の中心、余白、行頭の位置に気をつけて書いている。 A :効果的に書くための基準について、よく理解している。 文字の大きさ、行の中心、余白、行頭の位置に気をつけて、配列よく書いている。 支援 :配列は整っているか、筆記具は効果的に使われているかなど、具体的な投げかけをする。 鉛筆で下書きをすることで、文字の大きさや配列のめやすになるようにする。	B :効果的に書くための基準を確認し、自分のめあてを設定している。 A :効果的に書くための基準を確認し、自分のめあてを設定し、解決方法を選択している。 支援 :効果的に書くための基準について確かめられるようにする。	B :他の学習場面でも、配列に気をつけて書くことを、その目的や効果を考えて成果物に生かそうとしている。 A :書写で学習した内容を、他教科での学習や日常生活にも積極的に生かしていく意欲をもっている。 常に書く目的や効果を考えて、書写で学習した内容を日常生活に生かそうとしている。 支援 :昨年の6年生が制作した成果物などを具体的に例示する。 書写の授業以外でも、相手の読みやすさや効果を考えて書くよう呼びかける。	

指導月	時数	頁	教材名	学習指導のねらい	学習活動	学習指導要領の内容	評価規準		
							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
適時	44		はってん ―「行書」	○中学校で学習する行書の書き方について、興味・関心を高めることができる。	○身のまわりにある行書で書かれた文字を用意しておき、行書への関心を高める。 ○教科書の楷書と行書で書かれた『春』の文字を比較して、違いについて話し合う。 ○楷書と行書で『春』を書く。	アイウ			<p>B：中学校で学習する行書について、関心を高めている。</p> <p>A：中学校で学習する行書について関心を高め、積極的に学習に取り組もうとしている。</p> <p>支援：身のまわりで見られる行書で書かれた文字を例示して、関心を高める。</p>
	49～52		【漢字表】 六年生で学習する漢字 五年生で学習した漢字	○5年生で学習した字形の整え方などを確かめることができる。 ○6年生で学習した筆使いや筆順、組み立て方などを確かめることができる。 ○巻末漢字表を活用した、漢字の仲間分けの活動を行ったり、筆順がまちがえやすい漢字について確かめたりすることができる。	○筆順のきまりを確かめる。 ○筆順に気をつける漢字を正しい筆順で書く。 ○文字の組み立て方の観点から、巻末漢字表の文字を分類し、印を書き込む。 ○友達と見せ合い、正しく書けたか相互評価する。	アウ	<p>B：同じ組み立て方の構成をもつ漢字を探すなど、漢字の仲間分けについて理解している。</p> <p>A：同じ組み立て方の構成をもつ漢字を探すなど、漢字の仲間分けについて判断している。</p> <p>支援：今まで学習した文字の組み立て方などの内容を振り返り、確かめられるようにする。 辞典などを使って、漢字の部分について調べるようにする。</p>	<p>B：これまで学習した字形の整え方、筆順について考えている。</p> <p>A：これまで学習した字形の整え方、筆順について、よく考えている。</p> <p>支援：教科書紙面を使って、正しい筆順や字形の整え方などが確かめられるようにする。</p>	<p>B：巻末漢字表を使った仲間分けの活動や漢字の成り立ちについて、関心を高めている。</p> <p>A：巻末漢字表を使った、漢字の仲間分けの活動や漢字の成り立ちについて関心を高め、積極的に取り組もうとしている。</p> <p>支援：巻末漢字表の使い方について確かめられるようにする。 書写の授業以外でも、気をつけるよう意識づける。</p>
	53		【平仮名表】 【紙・すずり・すみの 作り方】	○平仮名の字形や筆順を確かめることができる。	○「平仮名表」を見て、平仮名の筆順や字形を確かめる。 ○字形がうまくとれない文字について、重点的に練習する。	アウ	<p>B：平仮名の筆順や字形について理解している。</p> <p>A：平仮名の筆順や字形について、よく理解している。</p> <p>支援：ふだん、字形を整えにくい文字に関して、教科書を見ながら確認できるようにする。</p>		<p>B：平仮名の筆順や字形を確かめている。</p> <p>A：平仮名の筆順や字形を、積極的に確かめている。</p> <p>支援：まちがえやすい筆順について、重点的に確かめられるように呼びかける。 書写の授業以外でも、常に気をつけるよう意識づける。</p>